



ほつとするね
緑の府中

指導室 だより

第 85 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063



《年頭所感》

国際社会で生きる子の育成

府中市教育委員会

委員長 久芳 美恵子

今の子供は「習い事で多忙なため遊ぶ時間がない」と言われる。いわゆるギャングエイジでのかわりの消失が言われて久しい。子供は友達と遊ぶ中で、人との付き合い方や場面に合った言い方等、社会性の基礎はぐくまれるが、そのような機会が子供から奪われている。運動不足だけでなく、目に見えない他者とかかわる力の低下への影響は計り知れない。

言語活動の充実が示された。それは上記と深く関係する。
豊かな経験と聞き手の存在

人との関係の基礎である「おはよう」のあいさつ、「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えないことや、「貸して」とも言わず黙って友達のものをつかったり、言いたいことが言えず溜め込み、ささいなことがきっかけでキレてしまうことは、一連の流れの中にある。

子供のことばや表現力を育てるには、子供自身の豊かな経験とそれに興味関心をもって聞いてくれる人の存在が不可欠である。

新学習指導要領で「生きる力」の育成が継承され、思考力・判断力・表現力の育成が改訂のポイントの一つとされた。そして

第一に子供が「だれかに伝えたい」と思う経験が多ければ多いほどよい。本市は様々な事業を展開しているが、八ヶ岳セカンドスクールなどは、自然体験と集団宿泊という今の子供にとって不足している要素を含み、だれかに伝えたいことが一気に増える活動であろう。子供だけでなく家族も話題が尽きないであろう。

しかし、本来は何気ない日々の出来事を楽しそうに聞いてくれる人の存在が、重要なのである。学校での出来事、先生に褒

められたこと、友達との会話等々、子供には本当は話したいことがたくさんあるはずである。「家ではほとんど話さない」と嘆く保護者が少なくないが、小さいころきちんと子供の話を聞いてきたであろうか。「ねえ、おかあさん」との声かけに「忙しいから後にして!」と返さなかつたらどうするか?このようなやりとりを繰り返すと、子供はそ

のりに話すことをあきらめて口をつぐんでしまう。
話をすることは表現力・思考力をはぐくむ

子供の話を聞くことはた易いことではない。まだことばがスムーズに出てこない幼児期から小学校低学年時代は、「それで:」「どうしたの:」などと発言を促しながら、その子のことばを先取りせずじっくり待つことが必要である。そして聞くだけではなく、「楽しかった」と

子供の話を聞くことはた易いことではない。まだことばがスムーズに出てこない幼児期から小学校低学年時代は、「それで:」「どうしたの:」などと発言を促しながら、その子のことばを先取りせずじっくり待つことが必要である。そして聞くだけではなく、「楽しかった」と

自分の思いをことばに託して相手に伝え、それを分かってもらえる楽しさを味わったならば、次から次へと話題は尽きないであろう。そして話す中で自分の感情を整理したり、考えに気付くことができる。なぜならば、ことばは自己表現やコミュニケーションの手段であると同時に、思考の道具でもあるからなのである。また、自分の話を丁寧に聞いてもらえると他者の話に耳を傾けられるようになる。

歴史や文化が多種多様な国々の集まりである国際社会では、互いの利害が一致しないことが常である。その時には、考えの異なる他国の意見に耳を傾け、その考えを尊重しながらも、自国の意見の背景や正当性を明確に主張し、説得を試みなければならぬのである。

まず、自分の考えや意見をもつこと。そして、それらを適切なことばで表現し、自己主張できる府中っ子に育てたいと思う。

まず、自分の考えや意見をもつこと。そして、それらを適切なことばで表現し、自己主張できる府中っ子に育てたいと思う。

というような感想には、「何が?」のように「楽しかったのかその思いや感情を丁寧に聞き取ることである。」

自分の思いをことばに託して相手に伝え、それを分かってもらえる楽しさを味わったならば、次から次へと話題は尽きないであろう。そして話す中で自分の感情を整理したり、考えに気付くことができる。なぜならば、ことばは自己表現やコミュニケーションの手段であると同時に、思考の道具でもあるからなのである。また、自分の話を丁寧に聞いてもらえると他者の話に耳を傾けられるようになる。

歴史や文化が多種多様な国々の集まりである国際社会では、互いの利害が一致しないことが常である。その時には、考えの異なる他国の意見に耳を傾け、その考えを尊重しながらも、自国の意見の背景や正当性を明確に主張し、説得を試みなければならぬのである。

まず、自分の考えや意見をもつこと。そして、それらを適切なことばで表現し、自己主張できる府中っ子に育てたいと思う。

府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

かかわり合い、伝え合い、
わかり合える子

「話す・聞く活動を通して、
互いに尊重し合う子どもを育てる」

府中市立小柳小学校
研究主任 佐藤 学

1 研究主題と

主題設定の理由

本校では平成21・22年度の2年間、府中市教育委員会研究協力校として、「かかわり合い、伝え合い、わかり合える子」話す・聞く活動を通して、互いに尊重し合う子どもを育てる」という主題を設定して、国語を中心に研究に取り組んできた。本校の児童は、自分の気持ちをきちんと相手に伝えることが苦手であり、話を最後まで聞き、相手の思いをしっかり受け止めることが難しいという実態があった。そこで本校の重点目標「思いやりのある子」と関連させて、「言葉を通して適切に自分のことを表現できる子、正確に相手のことを理解できる子、そしてその能力を向上させて、互いの立場や考えを尊重することができる子」という児童の育成を目指して研究主題を設定した。

2 研究の実践

研究を進めるにあたって、小学校学習指導要領やそれぞれの学年の発達段階・児童の実態にあわせて「児童に付けさせたい力や態度」を設定した。また「話すこと・聞くこと」に視点を絞った年間指導計画を作成することにより、めあてを明確にし、系統性のある、見通しをもった学習活動を進めた。

研究主題に迫るために、三つの柱をたて、具体的な手だてや工夫を考えて実践した。

題材に関する興味・関心をもち、意欲を高める工夫

「かかわり合う」必要性や必然性の設定に、学習内容や学習形態などから迫った。

話す・聞く技能を

高めるための工夫

「伝え合う」（話すこと・聞くこと）の能力・技能の育成に指導内容から迫った。



4年生 話し合い活動

「わかり合える子」という受容的、共感的態度の育成に迫った。

また更に主題に迫るためには、「話すこと・聞くこと」の領域の学習で基礎を固めながら、他教科や他領域の学習で発展させることは、より効果的だと考え、視点をはっきりさせて活動を広げていった。

「話すことが好きではない」という児童がまだまだ多いという実態から、安心して話すことができるような言語環境づくりや学習集団づくりも進める必要があると考えた。そこで特に言語

環境の整備のために三つの言語環境作業部会を作り活動した。

《読書部》

読書量を増やしたり、楽しく読書ができる環境づくりをした。

《言語部》

暗唱をして、多くの詩に触れる活動や、言葉で楽しむ活動の年間指導計画を作成し推進した。

《掲示部》

各学年の言語活動の紹介をする場の設定や系統性を考えた掲示物の提案や調整を行った。

3 研究発表

研究発表会では、仲よし学級・低学年・中学年・高学年分科会ごとに主題に迫るための三つの手だてを中心にして、実践報告を交えながら報告をした。

パネルディスカッションは、2年間を通して指導していただいた三原一浩先生（元北区立第三岩淵小学校長）にコーディネーターをお願いし、「研究主題の更なる具現化を目指して」学校・家庭・地域の連携を深めるために」という表題で行った。

泉宜宏先生（文教大学講師）、三野勉氏（地域指導員）、荒田由香氏（PTA副会長）、佐藤学（本校研究主任）がパネリストとなり、改めて「連携の重要性と継続」を確認することができた。

4 成果と課題

【成果】

他教科・他領域まで広げた年間指導計画を作成し、見通しをもって学習を進めることができた。

また、かかわり合いの場の設定やモデルの提示が学習に有効であることが確認できた。

作業部会を中心にした言語活動は児童が言語に関心を持ち、楽しみながら取り組むことができた。

【課題】

「話すこと・聞くこと」を日常化することや語いを豊かにすることをこれからも継続して指導していくことが必要である。

また、かかわり合いがとても大事であることを児童に理解させる指導を工夫し、互いに尊重し合えるような児童を育てていきたい。



5年生 ニュース番組の準備

わが校の特色ある教育 No. 51
**「生徒の現状に基づいた
 分かる授業の研究」**
 ～確かな学力の向上のために～
 府中市立府中第六中学校
 主幹教諭 熊谷 淳義

☆確かな学力の向上

本校では、確かな学力の向上を図るため、学力向上委員会を設置し取り組んでいる。確かな学力の向上のためには、さらに授業を良くしていくこうとする授業改善が必要であるととらえ、研究を進めている。

◇校内研究の構想

本校では授業改善を推進するため、「分かる授業の研究」を行ってきた。研究主題を、「生徒の現状に基づいた分かる授業の研究」、サブテーマを「確かな学力の向上のために」とした。授業改善を進める上での根幹となる「学校教育目標」は、「学力と情操」、「健康と忍耐力」、「勤労と責任」の三つである。

◇本校の課題

生徒の実態は、「静かに授業に



臨んでいる生徒が多い」が、「自ら進んで考え、学習すること」に課題がある生徒も見受けられる。また家庭学習の取組み状況にも課題が見受けられる。

- ◇本校の取組み
- ・ 学力の調査の分析
 - ・ 基礎学力を付ける取組み
 - ・ 英会話教室の実施
 - ・ 学習教室の実施
 - ③家庭学習の習慣化
 - ・ 家庭学習の手引きの配布
 - ・ 学習マラソンによる家庭学習の把握と指導
 - ・ 家庭学習アンケートの実施と保護者への協力

そこで学校教育目標を実現し、生徒の実態に則した授業改善を推し進めるために、「学力向上に向けた学校経営方針」を立てている。

- ①分かる授業の推進
- ・ 分かる授業にするための授業要素の分析

- ・ ICT機器の活用
- ・ 授業評価アンケートの実施
- ・ 分かる授業への改善を工夫した授業公開

②基礎学力の定着

- ・ 各教科の基礎学力の分析

また、各教科で「授業改善推進プラン」を立て、教科ごとに授業改善を行っている。

- 【国語】
- ・ ワークシートの活用
- ・ 電子黒板の活用
- ・ デジタル教科書の活用
- 【社会】
- ・ 反復練習の実施
- ・ 手作りワークシートの活用

- ・ 日常生活のエピソードの取り入れ
- ・ 電子黒板、視聴覚教材の活用
- 【数学】
- ・ 発問、ノート指導の工夫
- ・ ノートの書き方の工夫
- ・ 教材の提示の仕方の工夫

- 【理科】
- ・ 「実験、観察」の重視
- ・ 少人数での実験の取り入れ
- ・ TITの活用の推進
- 【音楽】
- ・ パートリーダーの育成
- ・ 学級、個人の目標を設定した合唱コンクールの実施

- 【美術】
- ・ 役者絵で伝統文化を理解し、感性を高める指導の工夫
- ・ 写真からのデザイン化での、有機的な自己表現の推進
- 【体育】
- ・ 5分間走を取り入れた基礎体力の向上
- ・ 生徒が目的意識を持つプリントの活用

- 【家庭】
- ・ 目標の明確化
- ・ 教え合う環境づくり
- 【英語】
- ・ フラッシュカードやビンゴカードの工夫
- ・ スピーチ、ペア活動など「話す」活動の充実

「書く」活動の工夫
 ・ バターンプラクティスで反復練習の取り入れ
 ・ 音読、暗記、暗唱の活動の継続

◇授業公開の実施

本校では学校公開日を毎月設けて、保護者や地域の方々に授業の様子を参観していただいている。また今年度より学区内小学校にも案内を配布している。一学期には、学校長より「ミニ学校紹介」の説明会も行った。さらに11月6日には、「授業公開」を行うと同時に「授業改善説明会」を行い、授業改善の取り組みの成果のプレゼンテーションをした。

保護者からは、「細かく考えた指導がされていると思った。家庭学習も頑張らせた。」
 「身近でない抽象的になりがちな問題を、身の回りに引き寄せられるような話題を取り上げながらの解説は分かりやすかった。」
 「電子黒板による指導はよかった。」

などの感想をいただいた。このような保護者や地域の方々の声を今後も反映させ、本校教員が一丸となって授業改善を推進する所存である。

わが園の特色ある活動 No. 2

「のびのび矢崎」

府中市立矢崎幼稚園

主任 榎本 成子

「園外保育の充実」

幼稚園の子供たちにとって、自分の目で見たり触れたりする経験は、豊かな心をはぐくむために大変重要である。

4月には、府中本町駅近くの三角公園まで行き、並んで歩く練習をする。遊歩道には、花が咲き、タンポポの綿毛など春を感じ取ることができる。

5月には、大國魂神社に行きくらやみ祭の御神輿を宝物殿に戻す様子を見学することで府中の伝統行事の一部に触れさせている。11月には、西の市の見学もしている。

6月には、東京競馬場に行き遊具や芝生で思い切り遊んだり友達と一緒にお弁当を食べたりして楽しく過ごしている。この



くらやみ祭

ような経験を通して公共施設での過ごし方を学ぶ機会にもなる。今年度は、乗馬体験もした。

7月には、郷土の森に行ってプラネタリウムを見たり、じゃぶじゃぶ池で水遊びをしたりしている。紫陽花が満開で、手に触れて観察し、花の香りを楽しみながら初夏の自然を感じている。

この他にも、サンリオピューロランドや、遠足で府中の森公園と多摩動物公園に行くなど園外保育の充実に努めている。

「栽培から食教育へ」

園内の畑を利用して栽培活動を行っている。4月に、今まで日陰になっていた畑を日当たりが良い園舎側に移設したことで、昨年より多くの作物を栽培できた。

3月のジャガイモ植えから始まり、ミニトマトやキュウリの苗を植え、5月には、さつまいもの苗をさした。そして、9月には、大根の種まきをした。

園児たちが栽培した夏野菜のまま、キュウリは、塩味を少しつけて、インゲンも幼稚園で茹でてそのまま食べた。もぎたということもあり、

「幼稚園のは、おいしいね!」



矢崎小学校との交流会

「お家とは違う味がする。」など、野菜が嫌いで家では食べられない子も食べられ、「野菜が食べられた。」と、自信もった子も多くいた。

ジャガイモは、調理体験のカレーに使い、サツマイモは、蒸かして11月の誕生会のおやつとして食べた。

自分たちで、育てた作物で、しかも友達と一緒に食べたり、調理をしたりする経験を通して、嫌いな物もがんばって食べたり残さず食べるようにもなった。栽培活動を通して、収穫の喜びを体感するだけでなく、食に対する興味関心もはぐくまれていく。

「異年齢交流」

小学校へのスムーズな橋渡し

になるように願いを込めて、矢崎小学校の二年生と年間を通しての交流をしている。1学期にペアになる子を決め、その子と一緒に矢崎まつりに参加させてもらったり、幼稚園に遊びに来てもらったりしている。3学期には、二年生に招待してもらい手作りのゲームで遊ばせてもらったり楽しく交流している。

また、公立中学校の二年生が職場体験で来園し、子供たちとの交流が図られ、幼・小・中の連携を図る貴重な機会にもなっている。

その他にも、近隣の市立保育所の子供たちや小学生・未就園児を一日動物村や観劇に招待したり、幼稚園公開や園庭開放イベントで未就園児との交流の場を設けて一緒に遊んだりしている。そして、地域の老人会「福寿会」の方に来ていただき、伝承遊びの会を実施したり、園児の祖父母を招待し、一緒にゲームをしたり、歌や遊戯を発表したりもしている。核家族化により、お年寄りと接する機会が少なくなってきた子供たちも多いが、すぐ親しくなって遊んでいる。

異年齢交流を通して自分が役に立っているという自己有用感が培われている。

子供サイエンススクール

もの作りに挑む

「べっこうアメ・カルメ焼き作り」

子供サイエンススクール事務局

担当 清宮 宏文

最初に比較的時間もかからず、成功感を味わえる「べっこうアメ作り」から始めた。

短時間にきれいなべっこう色のアメが出来上がり全員、歓びの声をあげた。

次に「カルメ焼き」に挑戦。

材料に重曹を入れ、ふくらませるという作業工程がある。砂糖を熱しながら重曹を入れるタイミングを図るのが難しい。重曹がその働きを十分にすると温度と時間の長さがあるからだ。温度計が125℃を指すタイミングで素早く重曹を入れ、まんべんなくかき混ぜないとふくららしたカルメ焼きができない。

「子供サイエンススクール」のメインテーマは「もの作り」である。いろいろな材料や道具類を使って新しい物を作り出す喜びを味わう教室である。そこは、思考力や創造力、発展的に先を見通す力など総合的な能力が育成される体験の場である。

簡単ではなかったカルメ焼き作り

11月上旬、第8回目の「子供サイエンススクール」として「べっこうアメ・カルメ焼き作り」を取りあげた。例年、参加者のアンケートから「ぜひやって欲しい」として希望の多いテーマである。定員オーバーの32名が応募し、1人の欠席者も居なかった。

ことから形の違ったアメ細工を作り始める子がいた。素晴らしいことだと思う。一つのことから、次に発展的にアイデアが浮かぶ。それを元にまた新しいアイデアが次に浮かぶ。

子供たちの歓声があちこちからあがる。成功した満足感と新たな発想と挑戦が生まれた。「知識と感動が連動すること」に意義がある

「知識と感動が連動すること」に意義がある

現代の子供たちは、知識は豊富だが、知識を利用して応用する力が弱いといわれている。それは、知識が知恵に発展していないからだ。ともすると知識の豊富さを賞賛しがちだが、知識を応用して新しいものを創り出すことに生かしていけるかが大切である。

そのためには、体験して得た「感動」が伴わなければならない。「子供サイエンススクール」は、年間10回開催しているが、毎回時間を忘れて「もの作り」に没頭してしまう子がいる。

綿アメができる不思議さからアメ細工の発想

ザラメ糖から、白い糸のような綿アメがどうしてできるのか不思議だという子供が多かった。空き缶に小さい穴をあけ、ザラメ糖を入れ、熱しながら缶を回転させると、小さい穴から綿アメが吹き出してきた。

割りばしに綿アメを絡ませる

これからもこの「子供サイエ

ンススクール」を知識から知恵に発展させて意欲的に取り組めるテーマを設定して取り組んでいきたい。

時間をかけてじっくりと

「子供サイエンススクール」は、休憩時間を挟んで約3時間かけて実施している。それでも多くの場合、時間が足りないくらいだ。新しい疑問やアイデアを一つ一つ解き明かし発展的に探究していくには、とても45分や50分の授業時間では、足りそうもない。短時間でまとめようとすると、結論を急ぐあまり与えられた探究方法のみが、正解となってしまう。時間をかけながらいろいろ試行錯誤する科学こそ、科学を学ぶ重要なポイントである。

探究心の育成には、おいしいものを食べたり、珍しい物を見



うまくできたぞ！べっこうアメ

たりする一瞬の心地よさとは違った持続的な喜びや感動があるはずである。

「子供サイエンススクール」を担当し、いつも感じることは、科学工作に挑んでいるときの子供たちの目と姿がとても新鮮で、一つの目標に向かって無心で、しかも全身・全霊を総動員して挑んでいる様子は、見ていても美しく、感動的だ。そのときの子供たちは、次から次へと新しいアイデアを膨らませ「こういう場合はどうだろうか、こうしたらどうなるか」と物事を発展的に思考し、挑戦している瞬間だ。

科学を探究するには時間も手間もかかる。「子供サイエンススクール」を計画するにあたっては、子供たちが心から感動し、歓声をあげて取り組めるよう準備を万端にし、心ゆくまで疑問やアイデア実現に取り組める内容にして子供たちに提供したいものである。

「子供サイエンススクール」は、「もの作り」の特性から道具類を使う機会が多い。ハサミやネジ回しなどふだん家庭で使用するものは、いつでも効果的に使えるよう機会あるごとに熟達するようにし、道具類もなるべく潤沢に準備しておくよう努めている。

府中市教育委員会研究協力校

研究発表会案内(3学期)

◆矢崎小学校 1月28日

○研究主題「自ら学び考える子供
の育成」活用力の育成を通して

○講演「広げる学びと算数教育」

文部科学省初等中等教育局教育
課程課教科調査官 笠井健一氏

◆府中第七小学校 2月4日

○研究主題「基礎・基本の充実
をはかり、考えを深める指導の
工夫」言語活動を生かして

○講演「NHK大河ドラマ『龍
馬伝』にみる日本語・外国語」

東京学芸大学教授 大石学氏

◆府中第十小学校 2月8日

○研究主題「自ら考え、表現す
る児童の育成」思考力・表現
力を育てる指導法の工夫

○対談「思考力・表現力を育て
るために」鎌倉女子大学特任教
授 廣田敬一氏 昭島市立玉川
小学校長 渡辺秀貴氏

道徳授業地区公開講座(1月)

◆1月22日(土) 8時40分

☆小柳小学校

◆1月29日(土) 8時45分

☆府中第九小学校

☆白糸台小学校 8時25分

府中研究発表会 2月2日

○会場 府中の森芸術劇場

どりーむホール

○発表部 学校給食部

保健体育部

1月研修会・委員会等予定

日	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
13	木	進路指導主任会	教育センター	成績一覧表について
13	木	第5回就学指導協議会	教育センター	全体会
14	金	体力向上委員会	教育センター	印刷原稿校正
17	月	生活指導主任会	教育センター	全体会・分科会
17	月	中学校社会科副読本編集委員会	教育センター	印刷原稿校正
21	金	小学校社会科副読本編集委員会	教育センター	全体会
24	月	特別支援学級代表者会	教育センター	全体会・分科会
24	月	ICT活用推進委員会	教育センター	今年度のまとめ
25	火	小学校英語活動推進委員会	教育センター	全体会
27	木	教務主任会	教育センター	教育課程編成説明会



「総合的な子供の基礎体力向上
方策」(平成22年7月 東京都教
育委員会)の巻頭に東京都教育
委員会教育長の決意が載ってい
る。「長期的に低下している子供
の体力を、平成24年度には全国
平均に、平成31年度には
子供の体力がピークで
あったとされる昭和50年
代の水準までに向上させ
ていきたい」というもの
だ。名付けて「子供の体
力向上東京大作戦」であ
る。

平成21年度の「全国体
力・運動能力・運動習慣
等調査」の結果を見ると、
東京都の児童・生徒の総
合評価は全国平均を大幅
に下回っており、中学二
年生男子では47都道府県のうち
46番目である。順位が体力、運
動能力の実態のすべてを表して
いるわけではないが、東京都の
子供たちを預かる我々にとって
は非常に気になる結果であり、
何とかしたいと考えるのは当然
であろう。
子供の体力低下の原因や背景
として、人々が体力を重視しな

体力向上のうねりを

くなり、身体活動量(生活活動
外遊び、運動、スポーツを含む)
が減少してきたこと、「生活の
豊かさを求めて、機械化や合理
化を進め、生活環境やライフ
スタイルが変容したこと」が挙
げられる。

本市においては、平成18年度
から体力向上委員会を設置して
「児童・生徒の体力向上モデル
プラン」を作成し、先見的な提
案を行っているが、さら
に取組を強化するため
次のことを推進したい。

市内にも優れた取組をし
ている学校がある。その
情報を共有し、各校が自
分の学校のスタイルにア
レンジして実践する。保
護者や地域を巻き込み、
体力向上の波を起こす。
点と点を結んで線にし、
線と線を結んで面にする。
すなわち本市が一枚岩と
なって体力向上に向けた
うねりを起こせば、間違いなく
子供たちの体力は向上する。

今年度は方策を実行に移す年
である。第一の目標に掲げられ
た平成24年に向けて、何をしな
ければならないのか、「一校一取
組」を含め、各校において大い
に議論していく中で、その機運
を高めていきたい。
(指導主事 小野満 賢)

学びの窓

青少年健全育成協力店指定制度
について

児童青少年課健全育成担当主査
川田陽介

府中市では、青少年の健全育
成を目的として「青少年健全育
成協力店指定制度」を平成15年
9月から実施している。

当制度は、府中市内のコンビニ
エンスストア、酒・たばこ販
売店等、青少年の健全育成に
関わりが大きいと認められる業種
を指定し、「青少年健全育成協力
店」への加入をお願いするもの
である。

現在、126店舗の事業者の
方に加入していただき、「青少年
に販売することが好ましくない
商品は、青少年には販売しない」
「青少年の問題行動を発見した
ときには、一声かける・関係機
関に連絡する」「児童・生徒の
緊急時には、一時保護や安全確
保を行う」などの自主的な活動
を通じ、当市の青少年の健全育
成に取り組むとともに、学校、
地域社会、警察との協力体制を
確立していただいている。

今後も、教職員をはじめとす
る学校関係者各位の理解をいた
だくことにより、当制度による
連携をより密にし、青少年の健
全育成に努めていきたい。